

令和2年度 都内在住外国人に対する
効果的な情報発信及び収集に関する基礎調査
報告書

令和3年3月（受託先：株式会社ブレインワークス）

目次

1. 調査概要	2
I. 調査の目的	3
II. 調査対象、調査方法等	3
2. 全体集計結果	4
I. アンケート回答者の基本情報	5
II. 新型コロナウイルス感染症対策に関する情報	13
3. 考察	19
I. 考察にあたって	20
II. 相談窓口の周知について	21
III. 情報収集について	23
IV. 日常生活での感染予防について	26
V. 医療機関の受診について	28
VI. 積極的疫学調査への協力について	30
4. クロス集計結果	32
I. 相談窓口の周知について	33
II. 情報収集について	45
III. 日常生活での感染予防について	56
IV. 医療機関の受診について	114
V. 積極的疫学調査への協力について	132

1. 調査概要

I. 調査の目的

新型コロナウイルス感染症に関する情報発信は、東京都内に生活拠点のある外国人（以下「都内在住外国人」という）を対象にした日本語以外の言語での発信がまだ十分ではないと指摘されている。また、都内在住外国人を起点としたクラスターの発生時には、所管の保健所が行う積極的疫学調査が言語的・文化的障壁によりその目的を十分に達成できない状況も想定される。以上を踏まえ、都内在住外国人を対象にしたアンケートを実施し、彼らが必要としている情報の詳細や、効果的な情報発信及び収集の手法等についての調査を行い、今後の新型コロナウイルス感染症対策の参考となる情報を得ることを目的とする。

II. 調査対象、調査方法等

調査対象：

- ・ 都内在住の中国人、韓国人、ベトナム人、ネパール人、フィリピン人
- ・ 20歳以上の1,129人が対象
- ・ 国籍別の調査対象は以下参照
 - ・ 中国人 316人
 - ・ 韓国人 204人
 - ・ ベトナム人 204人
 - ・ ネパール人 202人
 - ・ フィリピン人 203人

調査実施方法：

ウェブサイトへのアクセスによるアンケート方式

調査期間：

令和3年3月5日～令和3年3月28日

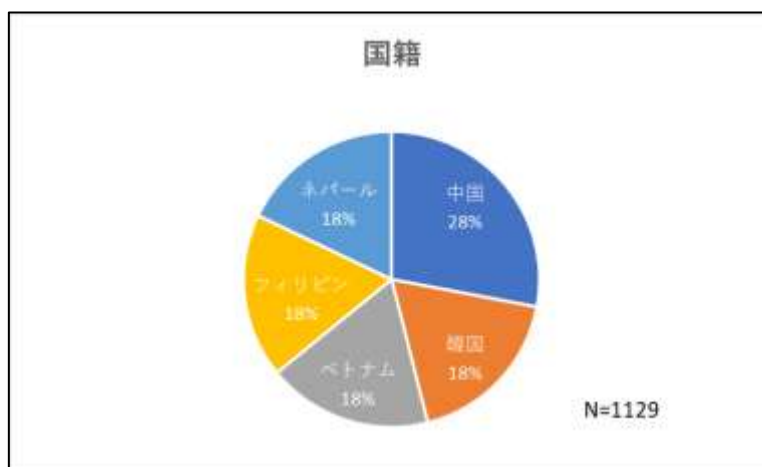
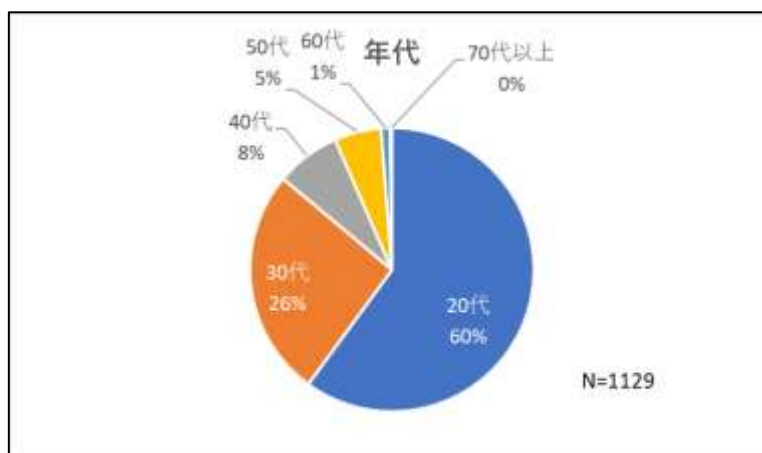
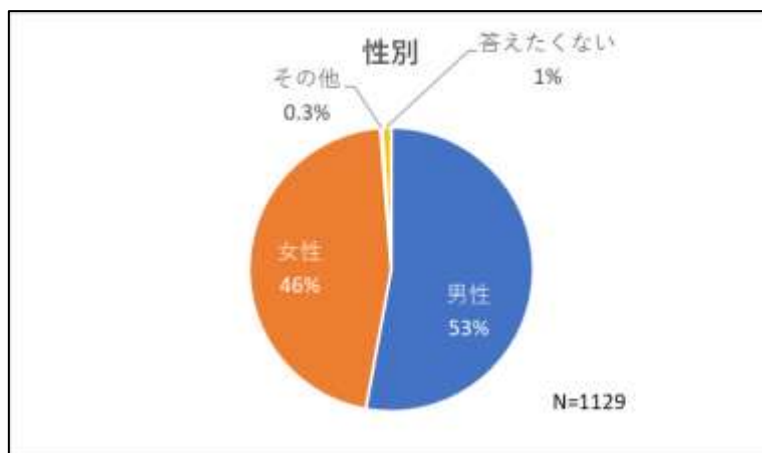
主な調査項目：

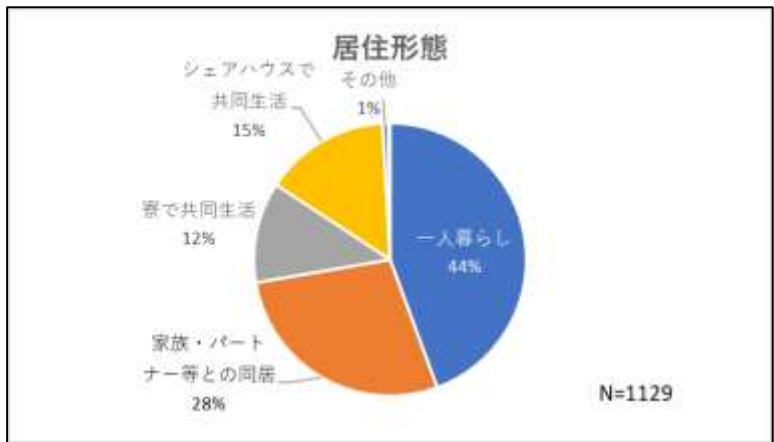
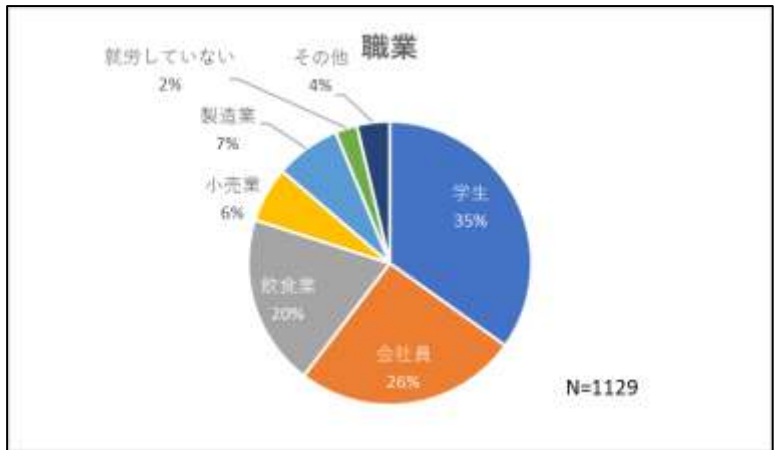
- ・ 回答者の国籍、職業等の基本情報
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策に関する情報

2. 全体集計結果

I. アンケート回答者の基本情報

・回答者内訳

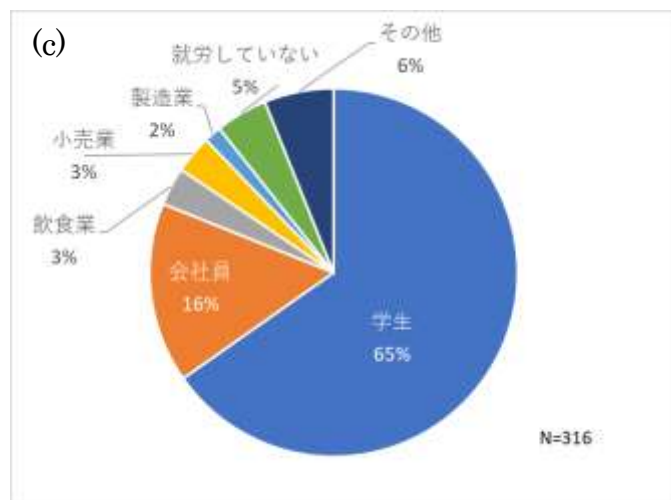
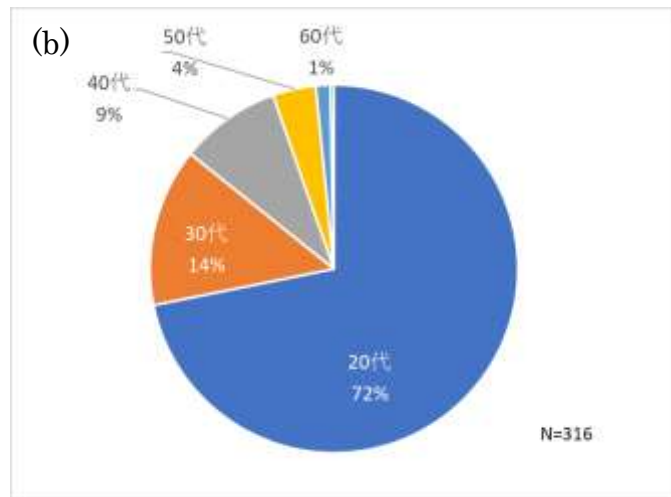
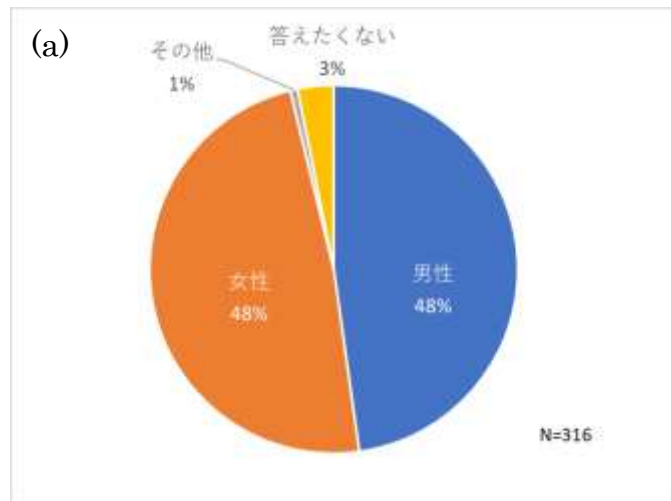




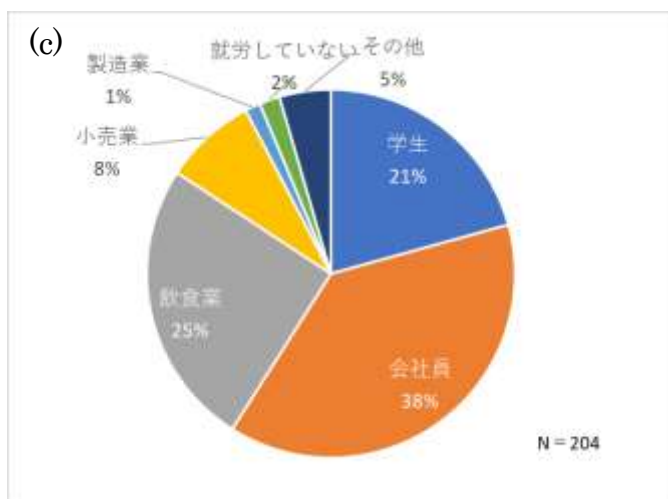
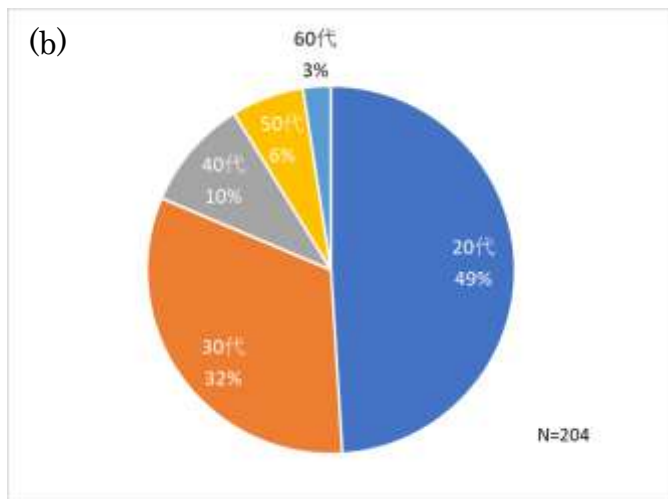
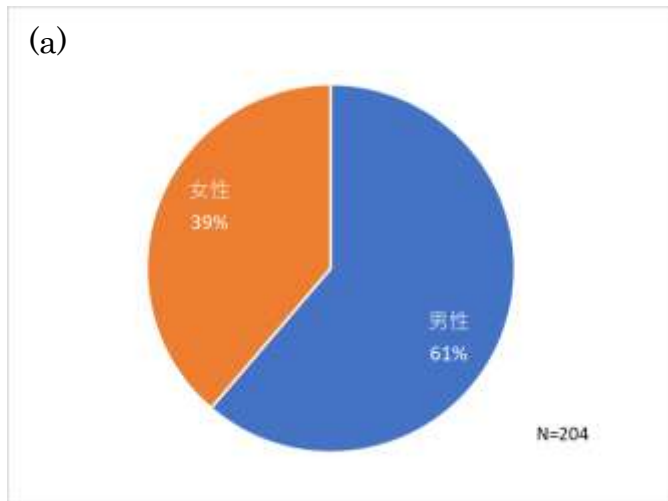
その他職業	人数
IT	1
UberEATS配達員	1
サービス業	2
デザイナー	1
ハウスキーピング	4
フリーランス	3
ホテルの受付	1
化粧品業界	1
建築	5
個人事業主	1
公務員	1
自営業	6
失業者	1
社長	1
製造	1
教員	4
専業主婦	3
通訳	2
美容業	3
病院関係	1
留学生	1
無関係な回答	1
総計	45

・国別 (a)性別、(b)年代別、(c)職業別

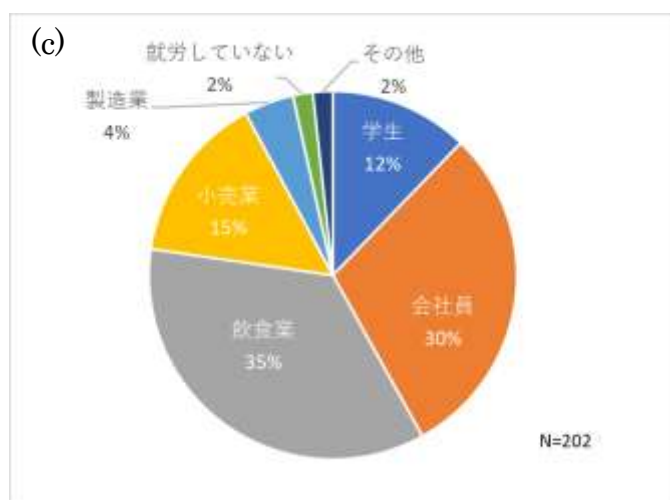
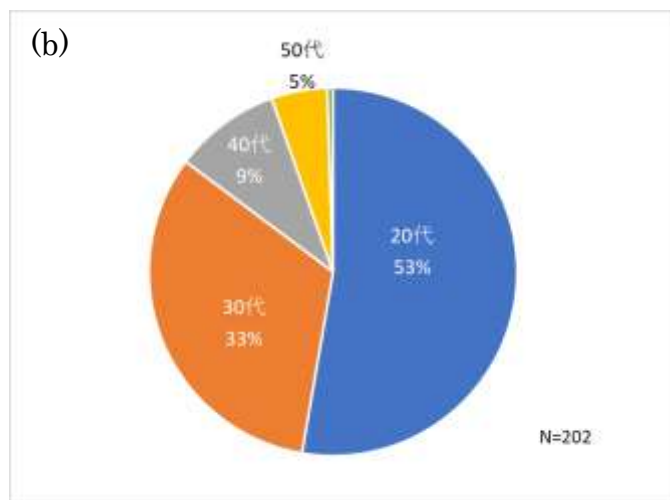
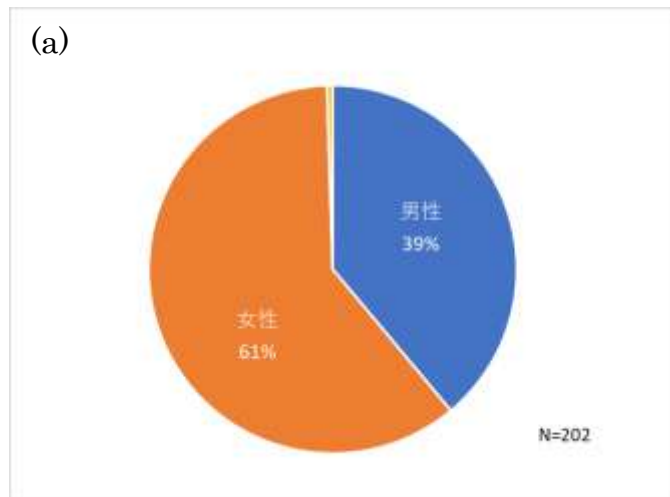
中国



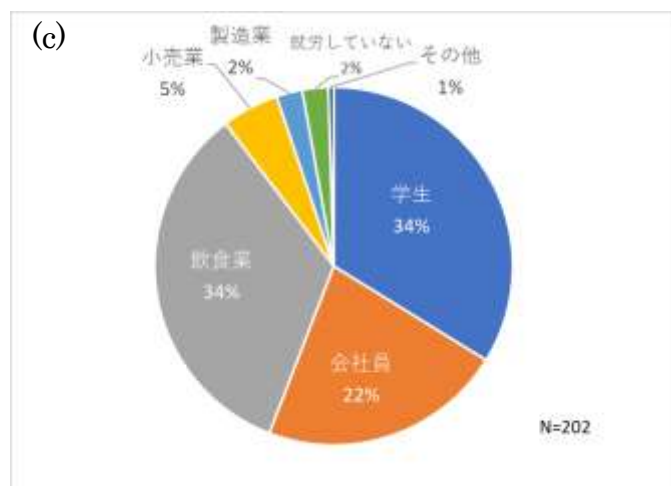
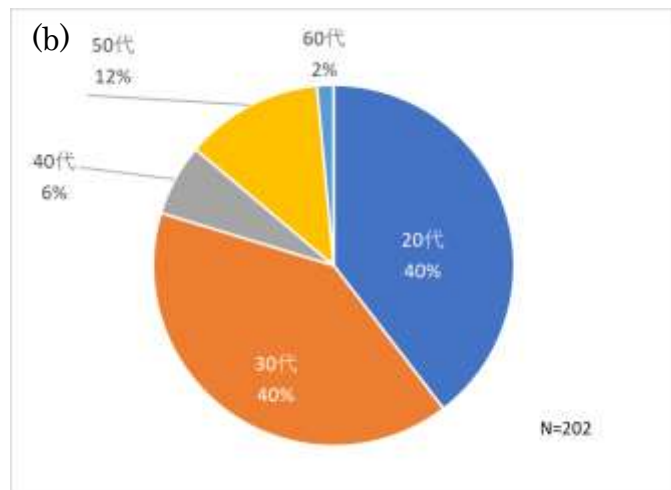
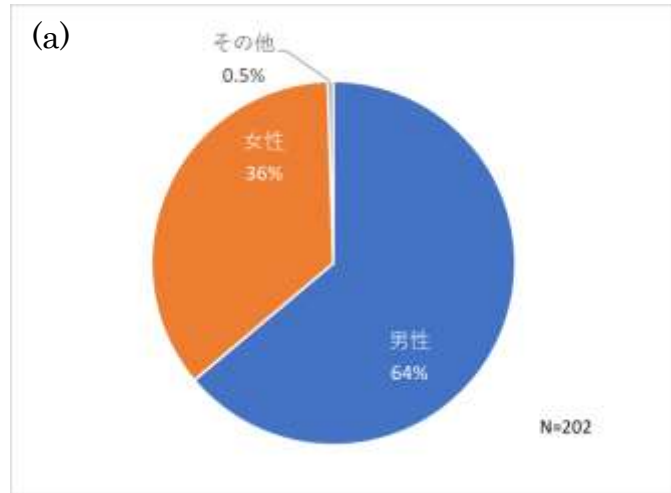
韓国



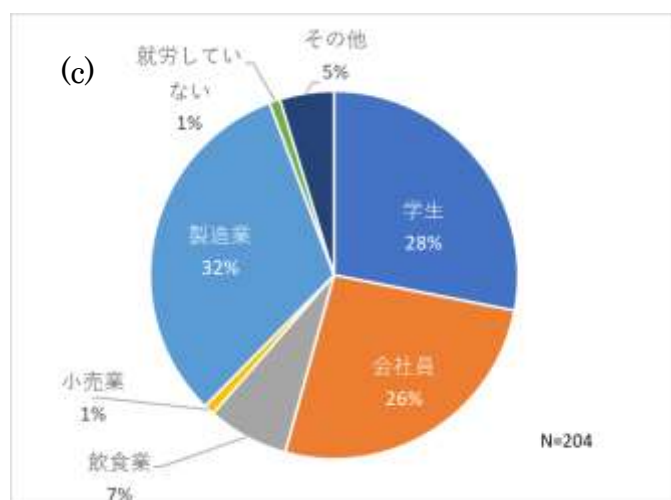
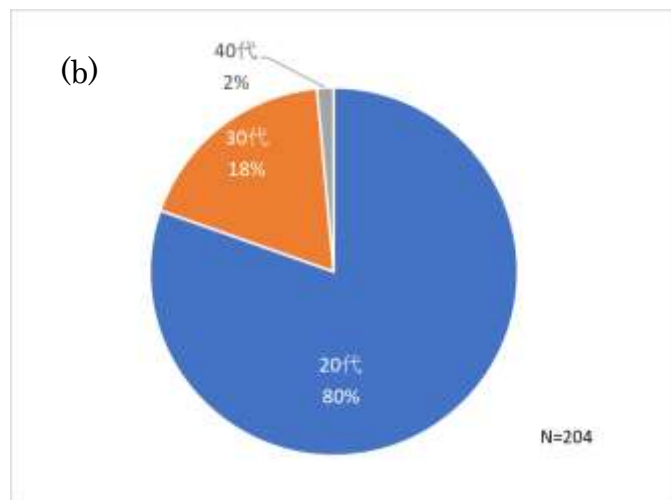
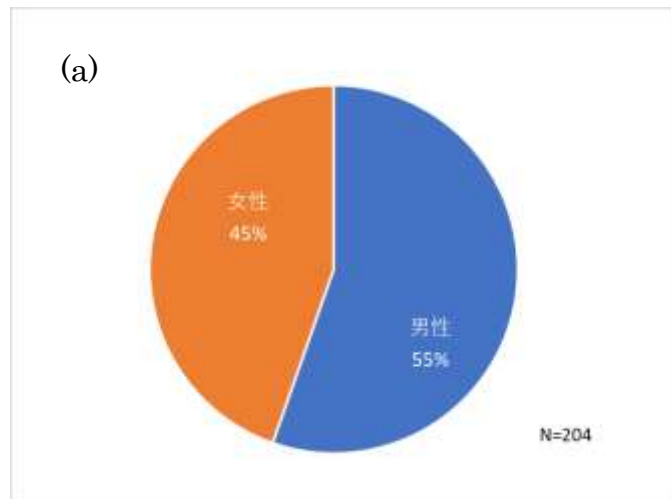
フィリピン



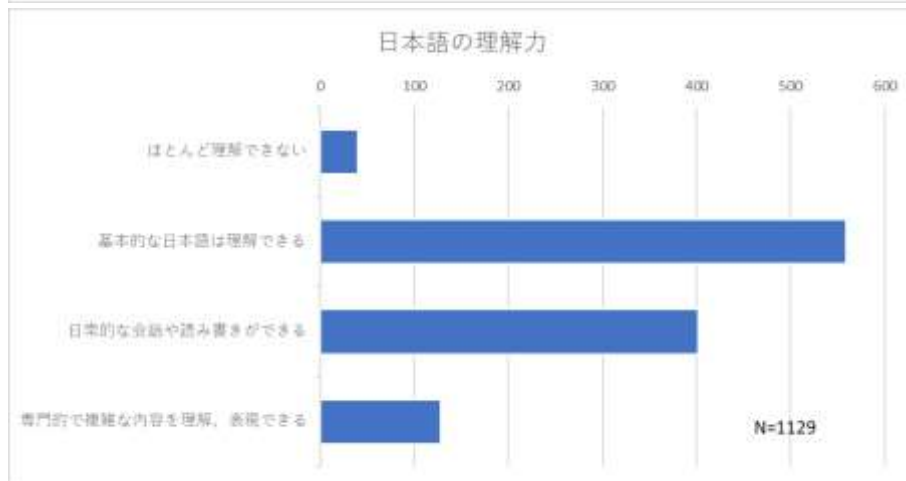
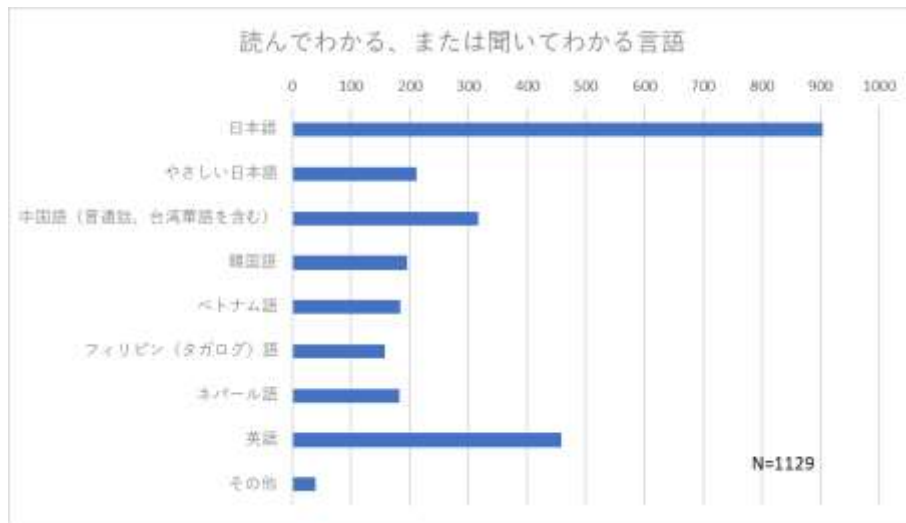
ネパール



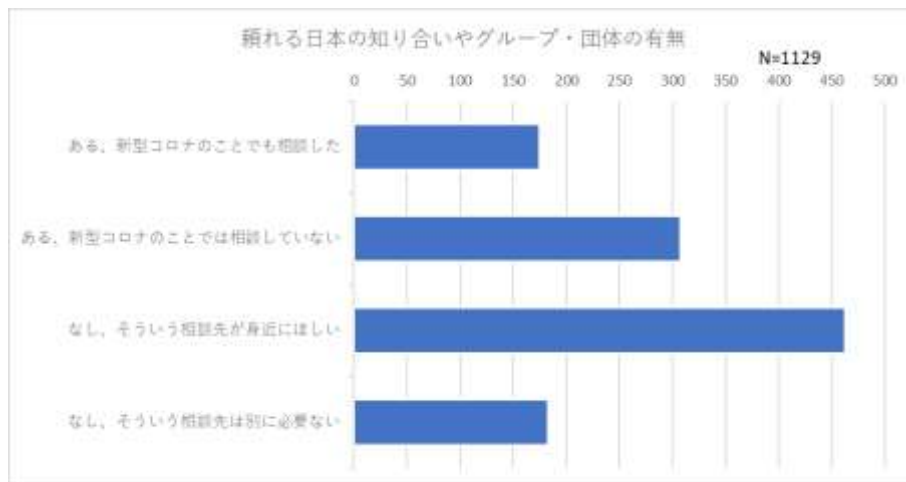
ベトナム



・言語について

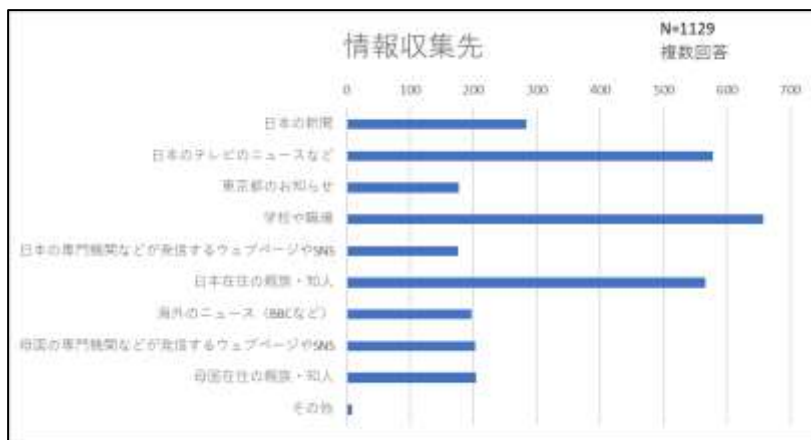


・グループ、団体について



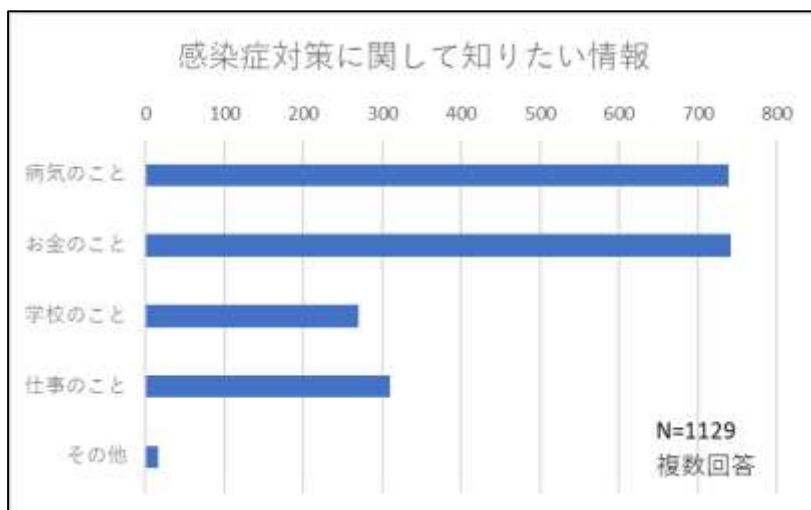
II. 新型コロナウイルス感染症対策に関する情報

・情報について



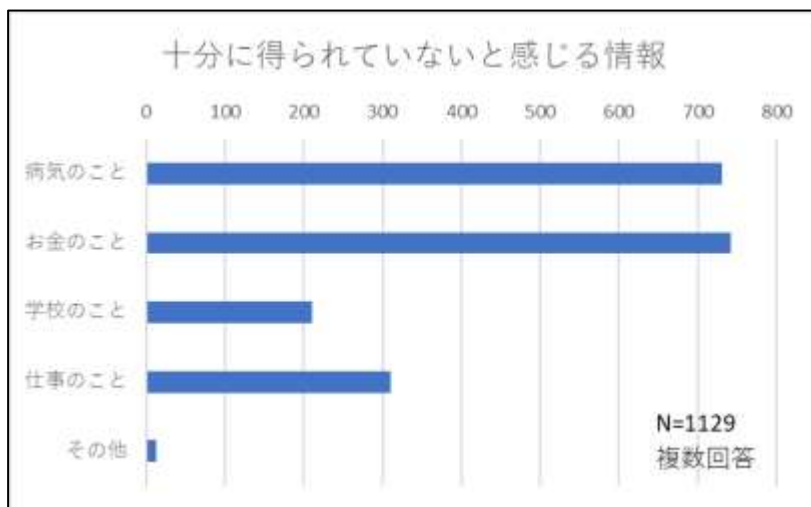
その他回答

その他情報収集先	人数
APP	1
Facebookのグループ	1
LINE	1
NHK	1
tiktok、facebook	1
Weibo	3
総計	8



その他回答

感染症対策に関して知りたい情報	人数
すでに知っている	4
ワクチン接種について	4
感染回避のため発生場所の情報	1
感染履歴	1
治療過程	1
必要ない	2
問い合わせ先	2
旅行	1
総計	16



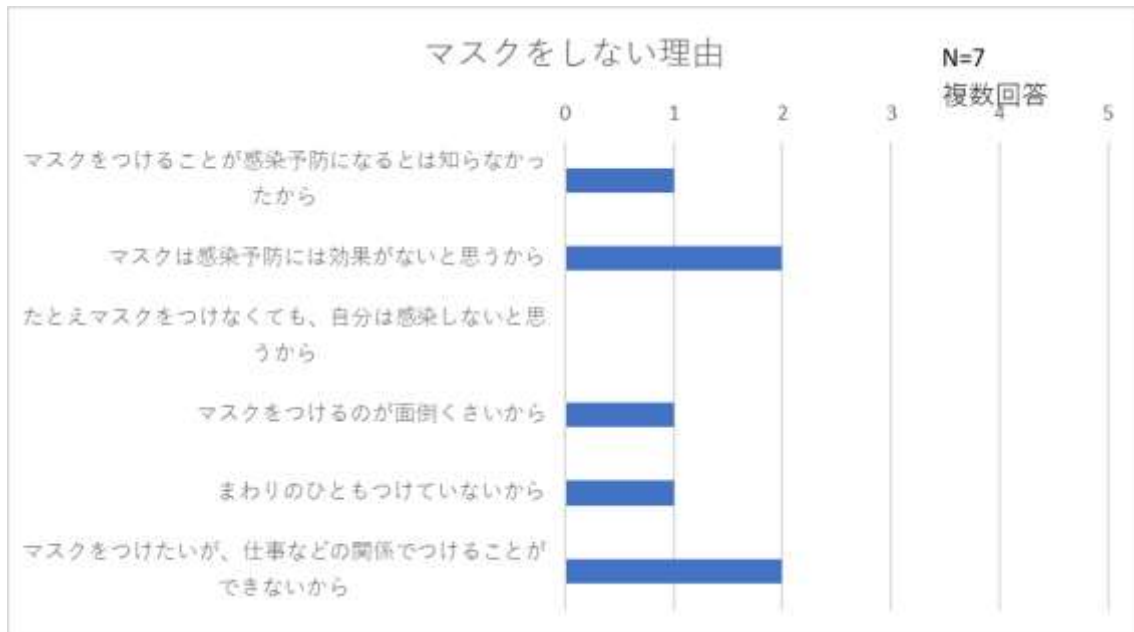
その他回答

十分に得られていないと感じる情報	人数
すでに知っている	1
リスクがある場所に関するより具体的な情報	1
ワクチン接種について	2
感染履歴	1
観光	1
基本的に理解する	1
潜伏期間中の人がいた場合の感染予防策	1
必要ない	2
不十分なメディア報道	1
問い合わせ先	2
総計	13

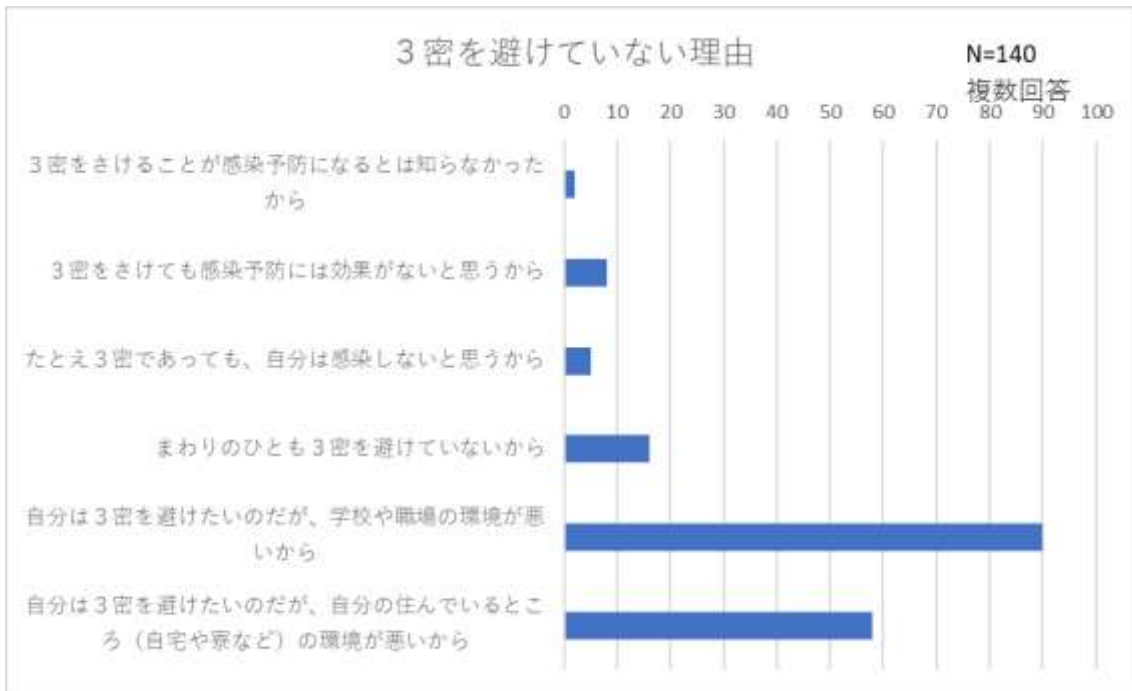
・感染予防として、普段の生活で気を付けていること



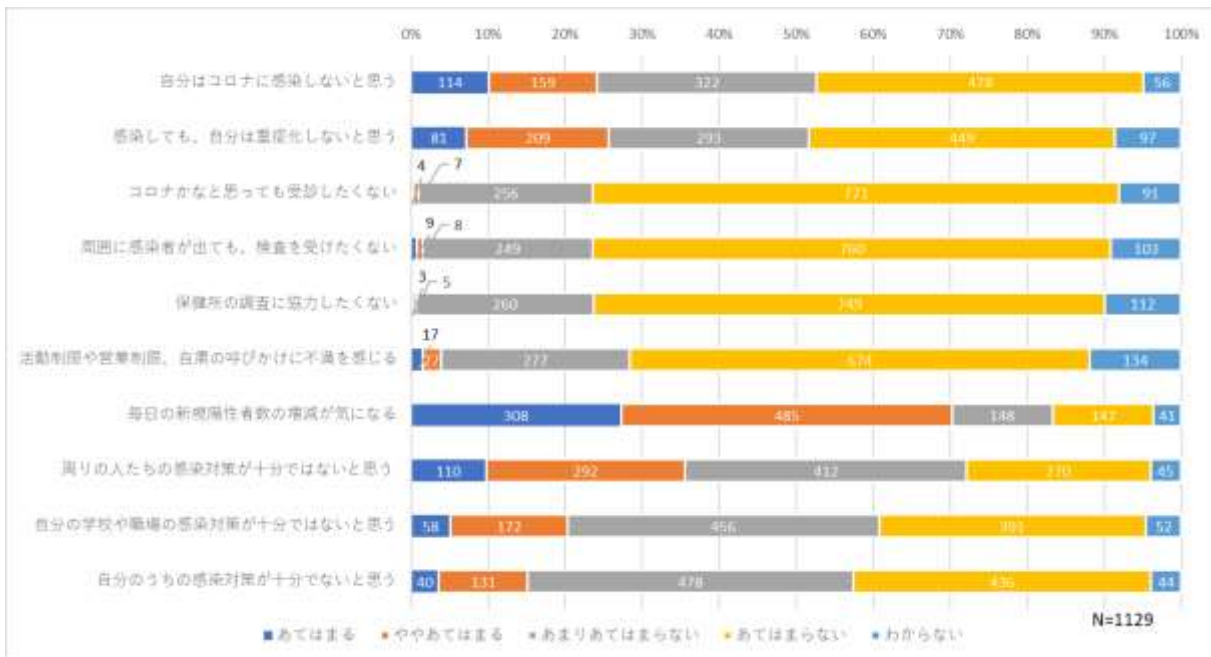
『できるだけマスクをする』の設問に対して「あまりあてはまらない」または「あてはまらない」と回答した方のマスクをしない理由



「3密を避ける」の設問に対して「あまりあてはまらない」または「あてはまらない」と回答した方の3密を避けていない理由



・新型コロナウイルスに対する自分自身の気持ちについて

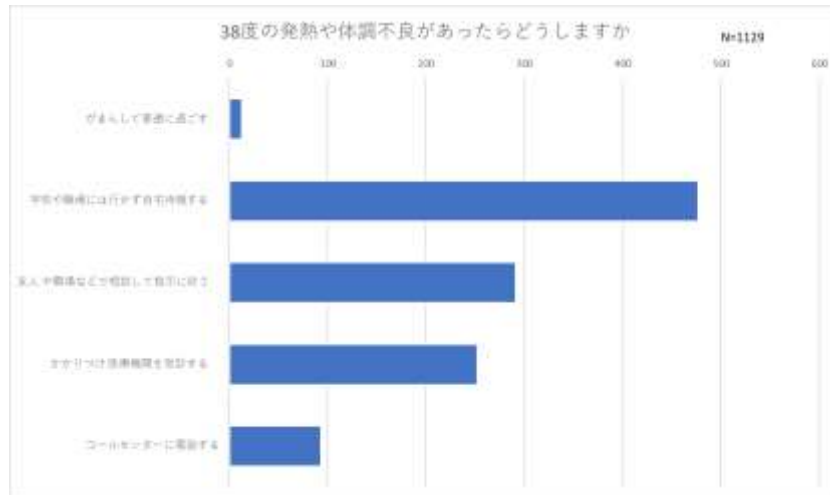


コロナかなと思っても受診したくない理由	人数
とても忙しい	1
病院が好きではなく、そのような場所で一人になりたくない	1
感染しているかどうかわからない	1
検査	1
仕事を休まなければいけないから	2
周りの人が心配するから	1
他の患者接触したくない	1
非常に深刻でない限り、病院はもっと危険だと思う	1
無関係な回答	2
総計	11

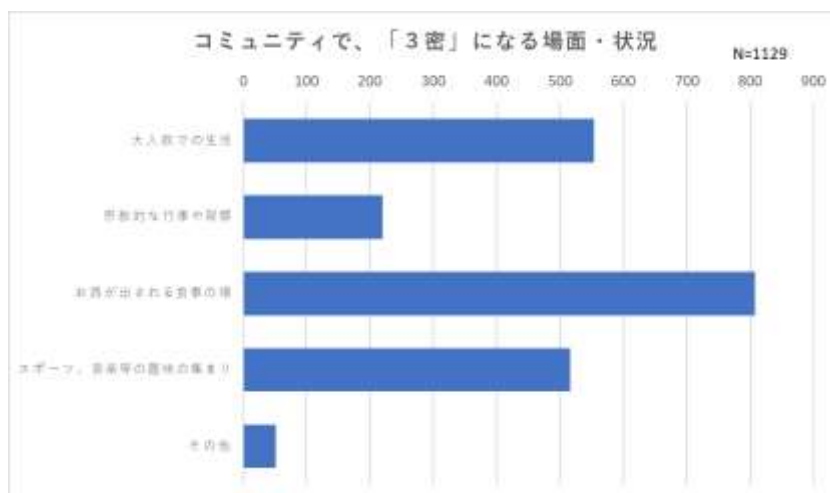
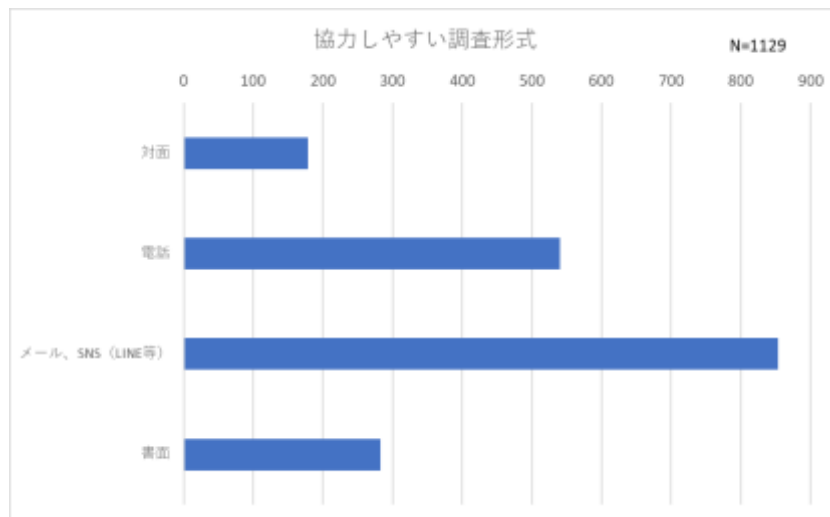
保健所の調査に協力したくない理由	人数
時間がない	1
日本語がわからない	1
面倒臭い	3
問い合わせ先	1
無関係な回答	2
総計	8

周囲に感染者が出て検査を受けたくない理由	人数
お金がかかる	1
毎日カレーを食べているので問題ない	1
運に任せる	1
空気感染の恐怖がある	1
検査中に感染する可能性がある	3
仕事を休まなければいけない	4
周りから嫌われる	1
症状がない状態での検査は少し面倒かつ方法がわからない	1
日本語がわからない	1
面倒臭い	1
無関係な回答	2
総計	17

活動制限や営業制限、自粛の呼びかけに不満を感じる	人数
意味がない、効果がない	4
検査を続けるよりも、ワクチン接種を早く増やす方がよい	1
個人々人に対する補償がないまま要請だけする政府に嫌気がさす	1
今よりも厳しい管理策が必要。	1
仕事ができない、休まなければいけない	8
仕事が減るから	4
仕事を失うから	1
アルバイトができない	3
無職	2
事業への影響が大きいため、都道府県内のすべての事業所を閉鎖するのではなく、感染拡大の適切な対象地域を特定する必要がある	1
自己認識は高くありません	1
自粛期間が長すぎて疲れる。	1
自分含め、飲食店もコロナ対策を充分にしていると思うので、20:00までの飲食店営業は少し困ります。できれば1時間延長して欲しい	1
お金がない	1
収入がなく、生きていくことできない	1
生活が大変	1
誰もがみておらず効果もないと思う	1
短期間の制限は、ライフスタイルに悪影響を与える可能性がある	1
必要以上である	1
夜遊べない	1
友達と外食できない	1
卒業が近いため、友達とパーティーしたい	1
レストランが20時まで営業はばかげている。誰もが18時頃に急いで入店し食事をするため、3密になる	1
流行はまだ終わっておらず、まだ蔓延するリスクがある	1
無関係な回答	4
総計	44



・新型コロナウイルス感染症発生時の疫学調査への協力について



その他の回答

コミュニティで、 「3密」になる場面・状況	人数
ない	8
何が起きているか知りたいですか	1
学校	3
混雑した場所	1
出かけるときには連絡する	1
職場	4
職場、顧客訪問	1
地下鉄、スーパー	1
通勤	2
電車	5
買い物	4
友達に会う	1
家	1
無関係な回答	19
総計	40

3. 考察

I. 考察にあたって

以下の項目に関連する設問において「国籍別」「性別」「年代別」「職業別」でクロス集計を行い、項目ごとの傾向について考察を行った。

- ・相談窓口の周知
- ・情報収集
- ・日常生活での感染予防について
- ・医療機関の受診
- ・積極的疫学調査への協力

II. 相談窓口の周知について

関連する以下の設問についてクロス集計を行った。

8 気軽に相談できる（or いざというときに頼れる）日本の知り合いやグループ・団体は身近にありますか。

14 あなたは、38度の発熱や体調不良があったらどうしますか。

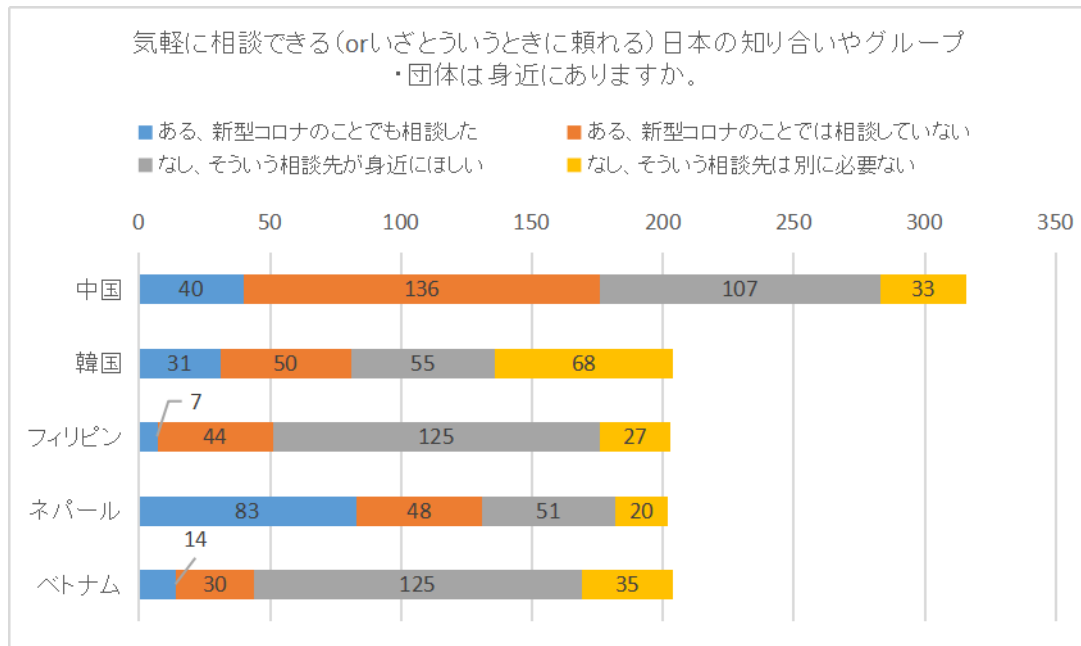
クロス集計の結果、以下の傾向を読み取ることができる。

- ・中国人、韓国人、ネパール人は相談できる知り合い、グループ、団体が身近にあると回答している人の割合が高い。一方、フィリピン人、ベトナム人はそのようなグループ、団体がないと回答している割合が高い。
- ・年代別に見ると、年代が上がるにつれ、相談できる知り合い、グループ、団体が身近にあると回答する人の割合は増加している。
- ・職業別に見るとネパール人の学生はグループ、団体に実際に相談している率が最も高い。一方でフィリピン人はどの職業を見ても、グループや団体に相談している人がほとんどいない。
- ・『14 あなたは、38度の発熱や体調不良があったらどうしますか。』において「コールセンターに電話する」の回答率が各国ともに低い。

考察結果

相談できる知り合い、グループ、団体が身近にあると回答している比率は中国人、韓国人、ネパール人が多いが、年代が上がるにつれその回答率が高まっている。長い期間、日本で生活することにより、同郷や日本人コミュニティとの関わりが深くなっている人が多いと推測できる。しかし、実際に新型コロナウイルスについて相談している人の割合を見ると少ないこともわかる。また、『14 あなたは、38度の発熱や体調不良があったらどうしますか。』の設問のうち、「コールセンターに電話する」を選択した人は各国ともに非常に少ない。これは都内在住外国人に、コールセンターの存在が周知されていないことが推測することができる。

<参考調査結果>



Ⅲ. 情報収集について

関連する以下の設問についてクロス集計を行った。

- 9 新型コロナウイルス感染症の情報収集先
- 10 新型コロナウイルス感染症対策に関して、何の情報が知りたいですか。
- 11 新型コロナウイルス感染症対策に関して知りたいと答えた情報のうち、十分に得られていないと感じるものは何ですか。

クロス集計の結果、以下の傾向を読み取ることができる。

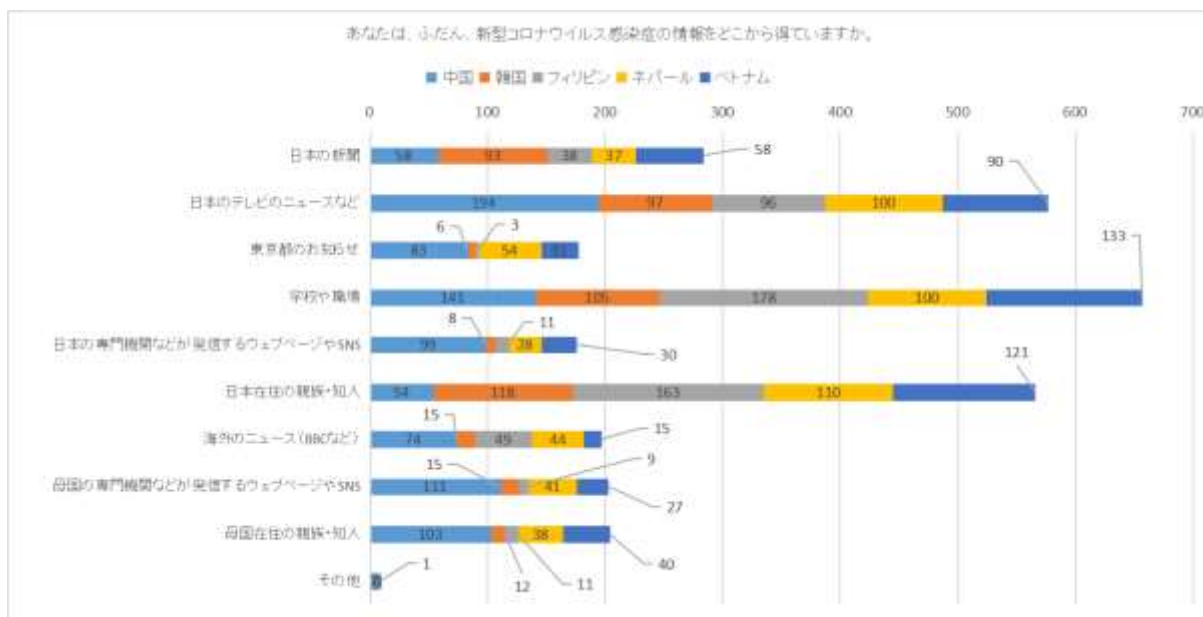
- ・新型コロナウイルス感染症の情報収集先としては、各国ともに高い回答率を示しているのは「日本のテレビのニュースなど」「学校や職場」「日本在住の親族・知人」など。
- ・中国人、ネパール人、ベトナム人は「東京都のお知らせ」を情報入手先としている割合が高い。
- ・『10 新型コロナウイルス感染症対策に関して、何の情報が知りたいですか』の設問においては、国別に見てもいずれも「病気のこと」「お金のこと」の回答率が高い。
- ・『10 新型コロナウイルス感染症対策に関して、何の情報が知りたいですか』の設問においては、フィリピン人は「お金のこと」について情報を欲していることがわかる。
- ・『11 新型コロナウイルス感染症対策に関して知りたいと答えた情報のうち、十分に得られていないと感じるものは何ですか。』の設問においても「病気のこと」「お金のこと」の回答率が高い。

考察結果

『9 新型コロナウイルス感染症の情報収集先』において「日本のテレビのニュースなど」「学校や職場」「日本在住の親族・知人」が各国ともに高い回答率となっている。新聞は特に学生などではあまり選択されていないこともわかる。「東京都のお知らせ」は中国人、ネパール人、ベトナム人は比較的の情報収集先として高い割合を示しているが、全体としては情報入手先として主流ではない。『10 新型コロナウイルス感染症対策に関して、何の情報が知りたいですか』

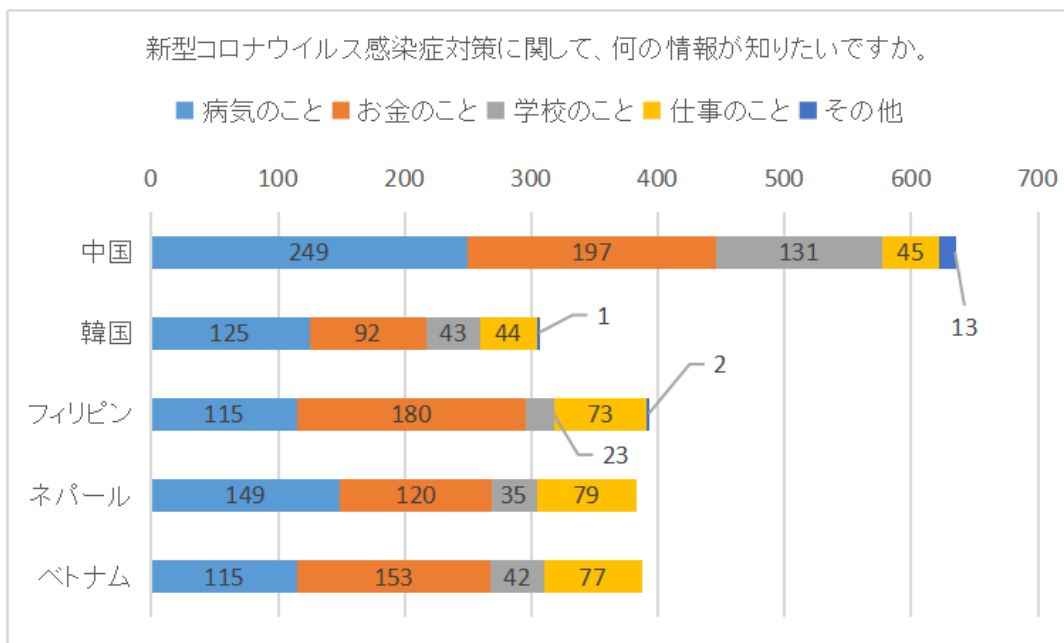
『11 新型コロナウイルス感染症対策に関して知りたいと答えた情報のうち、十分に得られていないと感じるものは何ですか。』においては知りたい情報と不足している情報の双方ともに「病気のこと」「お金のこと」に回答が集中している。これは、知りたいと思っている情報が十分に得られていないことを表しており、現状の在住外国人の人たちがどのような情報を欲しているのかを如実に示している。

< 参考調査結果 >



※その他の回答

	中国	フィリピン	ベトナム
APP		Facebookのグループ	tiktok、facebook
Facebookのグループ			
LINE			
NHK			
tiktok、facebook			
Weibo			



※その他の回答

中国	韓国	フィリピン
すでに知っている	治療過程	ワクチン接種について
ワクチン接種について		
感染回避のため発生場所の情報		
感染履歴		
必要ない		
問い合わせ先		
旅行		

IV. 日常生活での感染予防について

関連する以下の設問についてクロス集計を行った。

- 12-1 できるだけマスクをする
- 12-2 こまめに手洗いをするか、消毒液を使う
- 12-3 風邪の症状があるときの外出を控える
- 12-4 大人数または長時間の会食を避ける
- 12-5 仲間と盛り上がりながらもマスクを外さない
- 12-6 大声を出さない
- 12-7 3密を避ける
- 14 あなたは、38度の発熱や体調不良があったらどうしますか

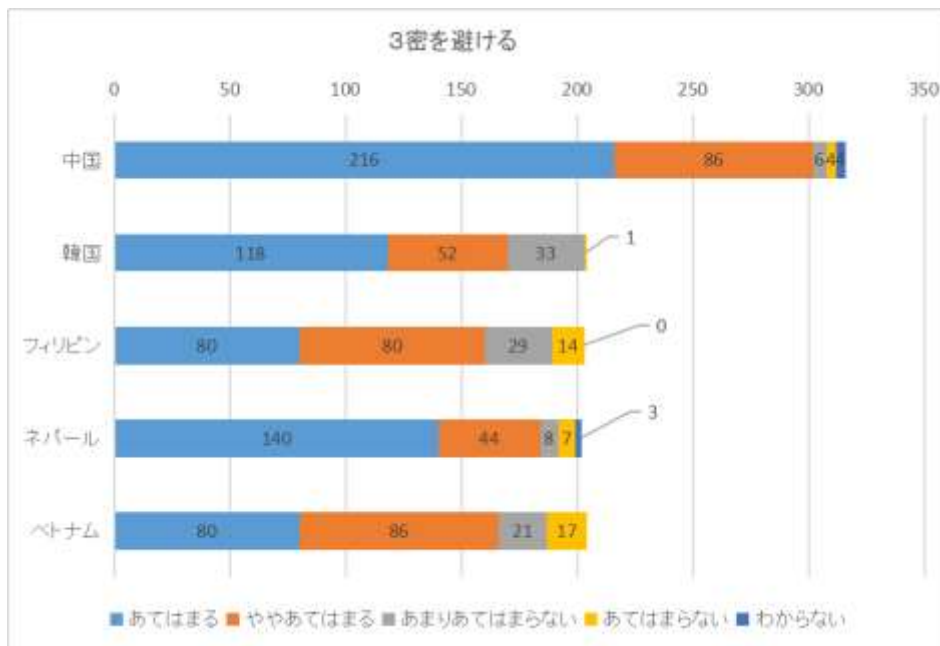
クロス集計の結果、以下の傾向を読み取ることができる。

- ・「国籍別」「性別」「年代別」「職業別」に関係なく日常生活における感染予防の意識は高い。
- ・『12-7 3密を避ける』において「国籍別」「年代別」「職業別」で差異が見られる。
- ・『12-7 3密を避ける』においてベトナム人は男女とも20%近くの人が「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と回答している。
- ・『12-7 3密を避ける』においてフィリピン人の20代の28.9%が「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と回答している。
- ・『12-7 3密を避ける』において韓国人の飲食業の38%が「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と回答している(同じ回答をした者の割合は、韓国人全体で16%、学生で13%)。
- ・『12-7 3密を避ける』においてフィリピン人の飲食業の34%が「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と回答している(同じ回答をした者の割合は、フィリピン人全体で21%、小売業従事者で29%)。
- ・『12-7 3密を避ける』においてベトナム人の製造業の34%が「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と回答している(同じ回答をした者の割合は、ベトナム人全体で18%、飲食業従事者で20%)。
- ・『14 あなたは、38度の発熱や体調不良があったらどうしますか』において中国人、ネパール人はかかりつけ医療機関に受診する比率が高い。
- ・『14 あなたは、38度の発熱や体調不良があったらどうしますか』において年代別に見ると、中国人、韓国人、ベトナム人で見ると年齢が上がるほどかかりつけの医療機関に相談する率が高くなっている。
- ・『14 あなたは、38度の発熱や体調不良があったらどうしますか』において年代別に見ると、ネパール人については若い年代でもかかりつけの医療機関に相談する方が多い。

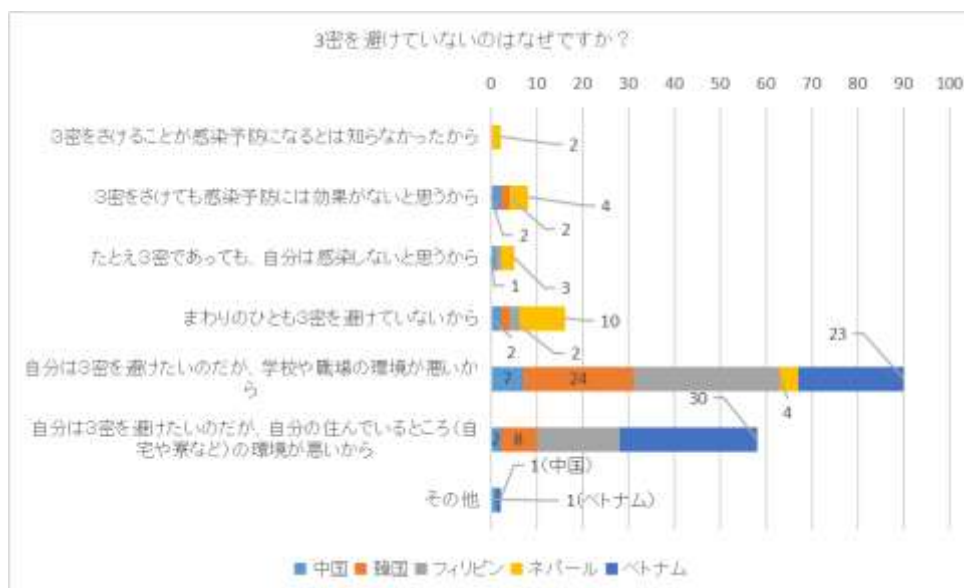
考察結果

日常生活における感染予防についてはアンケート集計の結果、国別、職業別を見ても高い意識をもって感染対策に臨んでいることがわかる。しかしながら、『12-7 3密を避ける』の設問においては傾向に若干差異が現れた。ひとつは職業別に見たときに、特に飲食業の比率の高い韓国人、フィリピン人において職業的に3密の環境が避けられない環境に置かれるケースが多いことを示している。また、同様にベトナム人の製造業で高い回答率となったのは、技能実習生の職場・居住環境において3密になりやすいことを示している。『14 あなたは、38度の発熱や体調不良があったらどうしますか』の設問においては、かかりつけの医療機関へ受診する比率が中国人、ネパール人以外は低く、そのような相談できる医療機関を持たない実態を浮き彫りにしている。

<参考調査結果>



※「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と回答した理由



V. 医療機関の受診について

関連する以下の設問についてクロス集計を行った。

13-3 コロナかなと思っても受診したくない。

13-4 周囲に感染者が出ても、検査を受けたくない。

13-5 保健所の検査に協力したくない。

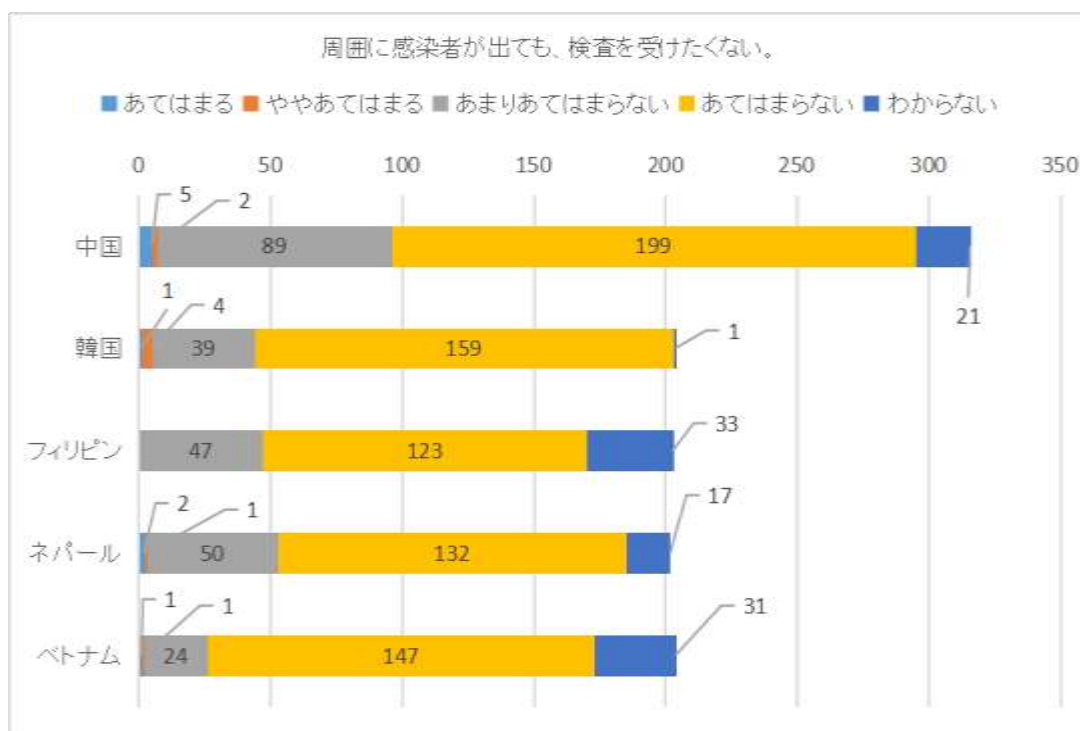
クロス集計の結果、以下の傾向を読み取ることができる。

- ・『13-3 コロナかなと思っても受診したくない。』の設問においては、各国ともに「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の回答率が非常に高い割合を占めている。
- ・『13-4 周囲に感染者が出ても、検査を受けたくない。』の設問においては「あまりあてはまらない」「あてはまらない」が高い割合を示しているが、中国人、ネパール人、フィリピン人、ベトナム人では「わからない」の回答が増加している。特にこの4カ国においては20代～30代でおよそ10%前後の割合で「わからない」と回答している。
- ・『13-5 保健所の検査に協力したくない。』の設問においても『13-4 周囲に感染者が出ても、検査を受けたくない。』の設問同様、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」が多数の回答を占める中、「わからない」の回答率も増加している。中国人、ネパール人、フィリピン人、ベトナム人で回答率は高く、特に20代の割合が高くなっている。

考察結果

『13-3 コロナかなと思っても受診したくない。』『13-4 周囲に感染者が出ても、検査を受けたくない。』『13-5 保健所の検査に協力したくない。』の設問の回答において共通するのは、各国の方々ともに受診、検査に対しては協力的であることがわかる。ただし、周囲に感染者が出た場合など迷うケースがあることを調査結果が示している。例えば、職業別に飲食店従事者などが「わからない」という回答が比較的多くなるかと思っただが、全職業別に見ても大差はない。保健所への検査の協力も同様で、自身の感染と周囲の感染、検査機関への対応などは在住外国人の方にとっては微妙に心理的に差異が生じてくることが見てとれる。逆説的にいえば、医療機関、保健所等がその心理的な障壁を取り除くような情報発信やアプローチが重要になることを示している。

<参考調査結果>



※「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した理由

中国	韓国	ネパール	ベトナム
検査中に感染する可能性がある	仕事を休まなければいけない	空気感染の恐怖がある	感染の危険がある
お金がかかる	日本語がわからない	毎日カレーを食べているので問題ない	
症状がない状態での検査は少し面倒かつ方法がわからない		周りから嫌われる	
面倒臭い			

VI. 積極的疫学調査への協力について

関連する以下の設問についてクロス集計を行った。

- 15 あなたやあなたの周りの人が新型コロナ感染症患者と診断された場合は、感染経路を調べるために保健所の職員が調査を行います。その場合、こういった形での調査であれば協力しやすいですか。

クロス集計の結果、以下の傾向を読み取ることができる。

- ・全体を通じ、「メール、SNS（LINE 等）での聞き取り」の回答率が高い。特に韓国人、フィリピン人、ベトナム人は高い回答率を示している。
- ・中国人、ネパール人は「電話での聞き取り」も高い回答率を示している。
- ・年代別に見ると各国とも 20 代は「メール、SNS（LINE 等）での聞き取り」の回答率が高くなっている。「電話での聞き取り」「対面での聞き取り」は 30～50 代で比較的高い回答率をしている。
- ・職業別に見ると、年代別と同様であるが、学生における「メール、SNS（LINE 等）での聞き取り」の回答率は最も高くなっている。

考察結果

日本同様、それ以上に SNS は外国人の間にも広がっており、保健所の調査においても「メール、SNS（LINE 等）での聞き取り」の回答率が最も高い。特に職業別に見ると学生の回答は「メール、SNS（LINE 等）での聞き取り」が圧倒的に多く、コミュニケーションツールとして重要な選択肢のひとつといえる。それでも年齢が 30～50 代にかけては「電話での聞き取り」を選択する率も高いが、これは日本で生活する期間が長く、また日本語が堪能な方は年齢が高くなるほど多いことを示している。

<参考調査結果>

